

長野農業農村支援センターだより

令和 7 年 3 号

令和 7 年度 長野地区新規就農者激励会・農業者交流会を 開催しました！



先輩から記念品を受け取る新規就農者



「Agri-AR」を体験する新規就農者

8月7日に、「令和7年度長野地区新規就農者激励会・農業者交流会」を開催しました。

この会は、長野地域で新規就農された皆様を関係者全員で応援するため、地元青年クラブ等と一緒に毎年開催しています。今年は13名の新規就農者に加え、地域の先輩農業者11名にも出席いただき、農業者同士の交流を深めました。

農業委員会や農業経営者協会の先輩方から激励のお言葉をいただくとともに、株式会社 Root 代表取締役 岸圭介 様をお招きし、「スマート農業をもっと身近に！」と題して、農作業補助アプリケーションサービス「Agri-AR」の紹介と体験を行いました。体験の感想やそれぞれの栽培の状況など、休憩時間等で参加者同士活発に意見交換をしており、貴重な情報共有、交流の機会となったのではないかと思います。

近年は予測のつかない気象災害に見舞われるなど、新規就農された皆さんが経営確立されるまでには幾多の困難が予想されますが、そうした困難を地域の皆さんとともに乗り越え、いずれは地域農業のリーダーとなられることを期待します。

発行 長野農業農村支援センター 技術経営普及課

〒380-0836 長野市大字南長野南県町 686-1

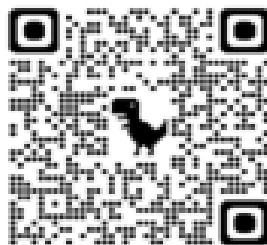
電話 026-234-9536 FAX 026-235-8393

Eメール nagano-aec@pref.nagano.lg.jp

URL <http://www.pref.nagano.lg.jp/nagachi/nosei-aec/index.html>

目 次

○農作物の生育状況	1
○特集 「アスパラガス栽培について」	3
○新規就農者の紹介	4
○地域のできごと	5
○情報提供	7



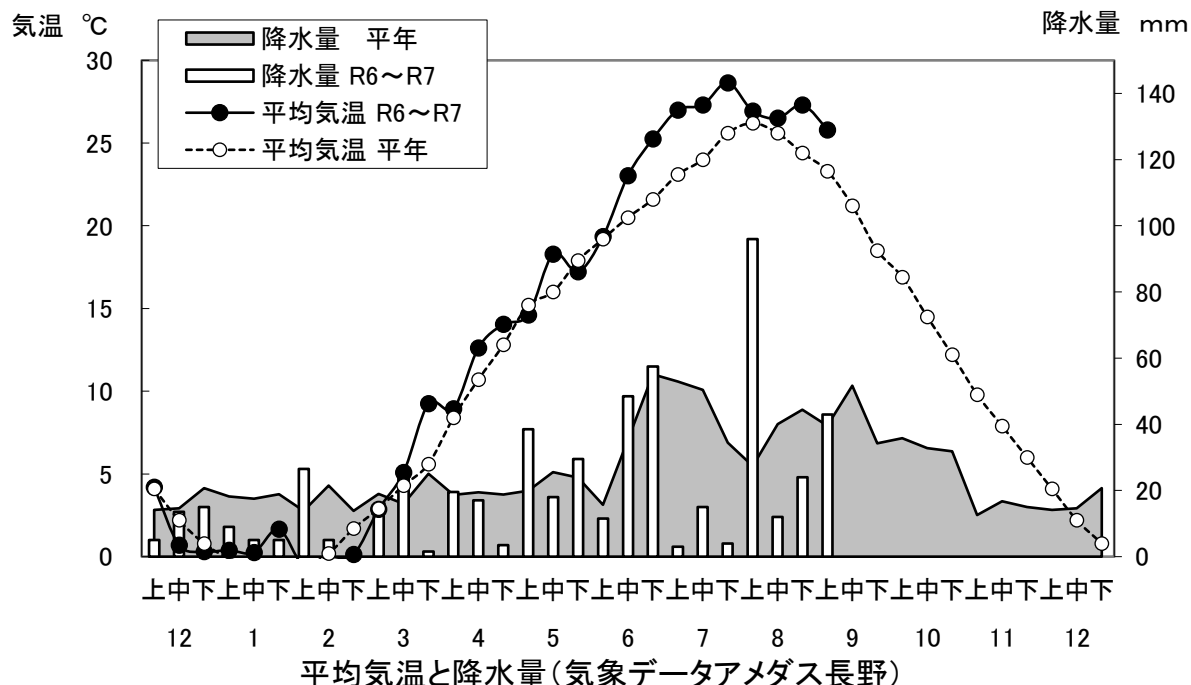
支援センターだよりHP

農作物の生育状況（9月15日現在）について

令和7年9月15日

長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 水稻

平年より2~7日ほど早く出穂期を迎え、その後、平年より2~3日ほど早く成熟期を迎えた。早生

品種では、平年より1週間早い8月下旬から収穫が始まっている。降雨が少なく、中干しが十分にできたほ場が多く、昨年より倒伏は少ない。一部の渇水地域では立ち枯れが見られた。また、出穂後の強風によるものと思われる褐変稲が多く見られる。

(2) 大豆

麦後は種の大豆は、8月上旬には種が完了し、現在は子実肥大期を迎えている。干ばつの影響を受けたほ場では草丈が短く、生育が抑制されている。一部地域ではマメシンクイガの被害が散見される。また、雑草の発生が平年より多く、大豆出芽後に雑草害のため耕起したほ場も見られた。

(3) ソバ

秋ソバの播種は完了し、出芽揃いも良好で、現在は乳熟期を迎えている。は種直後に湿害を受けたほ場については、蒔き直しにより生育は順調である。干ばつの影響により、湿害は少ない状況。

【果樹】

(1) りんご

夜温が下がらない状況が続いているため、外観の着色よりも内部の酸抜けや硬度低下が早く、内部先熟となっており、「つがる」、「シナノドルチェ」等は着色不良のまま収穫期を迎えている。7月の降水量が極端に少なかった影響から小玉傾向となっており、果実肥大は平年を下回っている。病害では、昨年、炭そ病が多発したほ場で果実病斑の発現が見られている。害虫では夜蛾、ハダニ、シンクイムシの被害が散見されている。また、昨年大発生したヨトウムシの発生も確認され始めている。

(2) ぶどう

ナガノパープルの収穫は概ね終了した。黒系は全般的に降雨が少なかった影響で粒は小さめ、糖度、着色は良好となった。お盆前の断続的な降雨によりシャインマスカット、クイーンルージュ®等で裂果が発生している。シャインマスカットは気温が下がった影響で一部園地では糖度上昇がやや停滞している。クイーンルージュ®は昨年と比較すると着色良好となっており、糖度も順調に上昇している。着色先行となっているため、内部品質が外部品質の仕上がりよりやや遅れる状況となっている。

(3) なし

「南水」は収穫期を迎えているが、降水が少なかった影響から肥大不良となっている。高温により内部先熟が進み、地色が抜けてきていないにも関わらず硬度が低下した。

(4) 核果類

極晩生種を除いて収穫は終了した。降水が少なかった影響から肥大が進まず小玉傾向のまま収穫期を迎えた。また、収穫間際で高温となった影響から成熟が遅延し、収穫時期が例年よりも遅れた。また、シンクイムシの被害が平年より多くなった。

【野菜】

(1) アスパラガス

平坦部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型はいずれも立茎中。長期どり栽培では夏秋収穫中である。収穫打ち切りは9月下旬頃のほ場が多い。一部で斑点病・茎枯れ病の発生、ハウス内においてはアザミウマの発生が見られる。

(2) 果菜類

キュウリ

抑制作型のキュウリが収穫後半となっている。夏秋栽培の露地について草勢が落ちている圃場が出ている。

ピーマン

8月の高温・干ばつの影響か、灌水が行えていない株は樹勢が落ちている。全般にオオタバコガの被害が見られる。

【花き】

(1) トルコギキョウ

抑制作型の6月下旬～7月上旬定植のものについては、収穫最盛期となっている。7月下旬定植のものについては、草丈40～50cm程度。高温により遮光資材を外すのが遅れ気味となっている。早期着蕾、枝数の減少傾向。一部の品種でチップバーンがみられる。

【畜産】

(1) 牧草

3番草生育中。雨が少ないため伸びが良くない。

(2) デントコーン

8月下旬～9月中旬に収穫が行われた。平年よりも生育がよかった。

アスパラガス栽培について

1 長野県アスパラガス概要

アスパラガスの国内栽培面積 4,500 haのうち、長野県における栽培面積は 655 haあり、栽培面積 1 位は北海道、2 位が長野県となっています。長野県の主な作型では、4 月下旬～9 月下旬まで収穫されます。

アスパラガスの収穫期からみた栽培方式



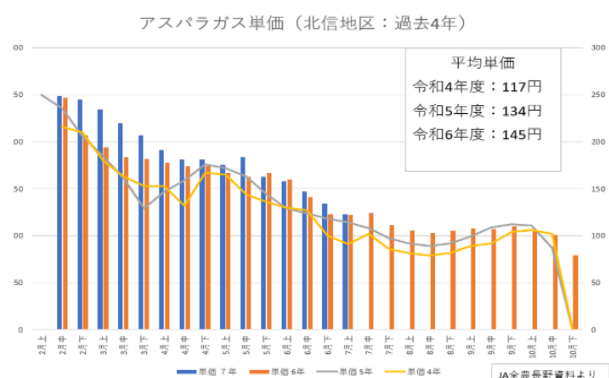
収穫量については、1 位が北海道で 3500t、長野県は 1440t で 8 位です。面積はありますが反収低下が問題です。

令和 4 年度アスパラ収穫量（全国）



※出荷時期については、農畜産業振興機構調べ
※農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：農林水産省「令和 4 年度 野菜生産出荷統計」

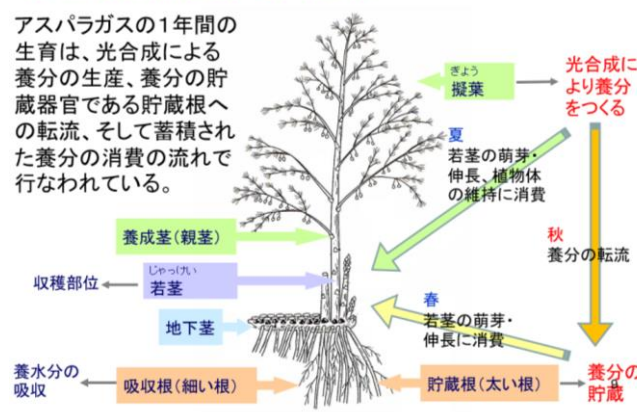
アスパラガスの平均単価については令和 6 年度平均単価は 145 円（北信地区）でした。



2 アスパラガス形態

春収穫が終了すると立茎期に入り、地下茎に次年度の収穫に必要な養分を蓄えます。アスパラガスの栽培において、立茎期の管理が重要になります。

アスパラガス —形態的特性— クサスギカズラ科に属する多年性植物



令和 7 年度

アスパラセミナーを開講しました！

第 1 回（終了）：8 月 28 日（木）座学

内容：アスパラガス栽培概要

- ・アスパラガス需要動向
- ・形態的特性
- ・アスパラガス栽培方式
- ・アスパラガス品種
- ・土づくりについて
- ・育苗～定植
- ・定植後 1 年～立基本数
- ・病虫害防除

第 2 回：10 月 16 日（木）優良ほ場（須坂市）

内容：アスパラガス現地優良ほ場研修

- ・栽培管理について
- ・病虫害防除について
- ・意見交換

お問い合わせ

長野農業農村支援センター
技術経営普及課 技術経営係

TEL 026-234-9535

担当 深井

長野地域管内の
新規就農者紹介!!

飯綱町

たかはし
高橋

たいき
大輝

さん

なな
奈菜

さん



・3年前から飯綱町で農業に関わり、昨年末に新規就農し本格的に農業を開始。

・りんご、水稻をお手伝いしながら学び、今年は野菜を1町歩強栽培しています。

➤ なぜ農業なのか

始めは、友人に誘われたことがきっかけでした。飯綱町に通ううちに、近所の農家さんにりんごやお米を中心に農業のいろは、奥深さ、素晴らしさを教わりました。そして何より、ここの食べ物の美味しさに感動しました。お世話になった方が亡くなったことをきっかけに、こんな素晴らしさを失いたくない。と自分ごとに考え始めたことが、今農業を続けている理由です。

➤ 実際に栽培をしてみて

実際に自分で栽培してみると、思ったように育たない。なぜこんなにも難しいのか。これが素直な感想でした。栽培した野菜やリンゴは大きく育たない。虫にすぐ食べられる。肥料や農薬を使っても上手に栽培するのは難しい。だからこそもっと挑戦したい、それが楽しい。そんな気持ちで、やっとな人に喜んでもらえるような作物が作れるようになってきました。

それと同時に、日頃の食事が当たり前にできることへの感謝が生まれました。この気持ちを忘れず、農業とも向き合っていきたいと思います。

地域のできごと

飯綱町で「農作業事故防止等安全講習会」が開催されました

8月5日に飯綱町町民会館で「農作業事故防止等安全講習会」が開催されました。

当日は14名の農業者の皆さんに参加していただき、支援センターから農作業安全と農薬の使用について説明をしました。農作業安全では農業機械の安全な使い方の動画を見てもらったり、VR映像を使って農作業事故を体験してもらいました。農薬の使い方では農薬の種類や使用する際の注意点について説明しました。参加された方からは、普段こういった研修はあまりないのでよかったとの声がありました。今年は長野地域で農作業事故が多く発生しているため、実際に事故を体験してもらい少しでも自分事として考えてもらえる良いとし、農作業事故の撲滅を目指したいと思います。（技術経営係 岩崎）



坂城町で「ねずみ大根」の種まきを行いました！

坂城町には、「ねずみ大根」という信州の伝統野菜があります。下ぶくれで短く、ねずみのような尻尾がついているように見えることからそう呼ばれています。代表的な食べ方は「おしぼりうどん」で、味噌や薬味を溶いたねずみ大根のしぼり汁に熱々のうどんをつけて食べる地域の伝統食です。辛味の奥にほのかな甘さを感じる独特な味わいがあり、地元ではこの味を「あまもっくら」と呼びます。

9月2日、晴天の中ねずみ大根協議会15名の皆さんと坂城町役場の職員4名で種まきを行いました。この種も協議会と地元の方々と協力して採種したものです。全部で40a程のほ場を手際よく播種した後、かん水、除草剤散布を行いました。

このほ場では、今年3年ぶりに「ねずみ大根祭り」を11月9日に開催予定です。多くの方に楽しんで頂くために、今後の管理作業も協議会の方々と協力しながら行っていきます。

（地域第二係 野溝）



千曲市若手ぶどう農家勉強会で視察研修を開催しました

9月3日に長野県果樹試験場で視察研修を開催しました。日頃から「試験場を見てみたい」という会員からの声が多く、今回の視察をしました。当日は11名の会員が出席し、熱心に研修に取り組みました。

研修では、長野県果樹試験場の職員から、場内の概要や今年の生育状況について説明がありました。その後、活発な意見交換が行われ、参加した会員からは、特に高温や干ばつが今年のぶどう栽培に与えた影響や、今後の対策について多くの質問が寄せられました。

この研修を通じて、会員からは、直接、最新の栽培技術や気候変動への対応策を学ぶことができ、今後の栽培に役立てていきたいとの声がありました。（地域第二係 竹内）



令和7年度アグリセミナーりんご講座を開講しています！

新規にリンゴ栽培に取り組む新規就農者、定年帰農者を対象に、栽培知識と技術を習得することを目的に計8回の講座開講を予定しており、今まで4回実施してきました。

9月4日に長野市上駒沢の現地ほ場で開催した第4回講座では8名が出席しました。りんごの着色管理について、着色のメカニズムを踏まえた、葉摘み、玉まわしのねらいとやり方等を学びました。また、自園地の土の状況を知るための土壌診断の意義、苗木の植え付け後における野ねずみ対策について学びました。



受講者からは、「高温時や日差しが強い日に葉摘みを実施すると果実の日焼けが起きるのではないか。」とか「かん水はどのくらい必要か。」等、積極的な質問が出されました。

また、園主からはりんごの高密植栽培については、樹体枯死が多いこと、品種ではシナノリップの色づきについての課題が提起され、りんご栽培を実践し、経営する上では、いろいろな課題に直面し、その都度対応が必要であることについてお話がありました。

次回以降の講座でも引き続き、りんごの健全な生育と高品質果実の安定生産をする上で、重要なポイントとなる基本的な技術について学んでいくこととしています。（地域第一係 南澤）

令和7年度グリーンセミナー（ぶどう講座）を開講しています！

前回のセンターだより発行以降、第4～6回の講座を開講しました。

9月9日の第6回講座では、JAグリーン長野の松代農業総合センターで集出荷場見学と栽培で困っていることの意見交換が行われました。

集出荷場の見学では、JAの技術員から出荷や評価方法について、出荷されていたナガノパープルやシャインマスカットなどを見ながら説明がありました。受講者からは、「着色」「粒数」「汚れ」などについて、細かく質問や確認がされていました。



栽培で困っていることでは、鳥獣害があげられ、ハクビシンやカラスなどにどのように対策しているか共有いただきました。

講座は残り2回となりますが、最後まで受講いただき、今後の栽培管理に役立てていただきたいと思います。（地域第一係 黒柳）

STOP!

農作物盗難



～大切に育てた農作物を盗難から守りましょう～



ポイント1 農作物の保管・管理

- 定期的な見回りを行いましょう。
異変があったら、すぐに警察に通報しましょう。
- 不審者の特徴、不審車両の色・ナンバーをチェックしましょう。
- 腕章や農作業車両にステッカー等をはるなど、農作業従事者である目印をつけましょう。



ポイント2 園地への侵入防止対策

- 園地にネットや柵を設置しましょう。
- 「盗難注意」「立入禁止」等の看板やのぼり旗を設置しましょう。
- 防犯カメラやセンサーライトを設置しましょう。

長野県農政部・長野県警察

※本製品は、皆様から寄せられた「ふるさと信州寄付金」を活用しています

農業と福祉がつながる「農福連携」 はじめてみませんか

近年、農業の現場では深刻な人手不足が課題となっています。一方で、障がいのある方々が働く場を求めている福祉の現場も、就労機会の拡大が求められています。そんな両者をつなぐ取り組みが「農福連携」です。

農福連携とは、障がい者等が農業分野で活躍することを通じて、自信や協働力を高め、社会参画を促進する取り組みです。農業者にとっては人手不足の解消だけでなく、作業の丁寧さや新たな視点の発見にもつながるメリットがあります。

農福連携のかたちはさまざま

- 農業者や農業法人が障がい者を直接雇用する
- 農作業の一部を福祉事業所（障がい者施設など）に委託する
- 福祉事業所が農業に参入し、農産物の加工・販売を行う など

福祉事業所が担う農作業の例

- 果 樹 ： 摘果、葉摘み、袋掛、収穫、剪定枝片付け
- 野菜・花き ： は種、定植、選別、計量、袋づめ、ほ場片付け
- そ の 他 ： 水稻ハゼかけ、大豆の選別、除草作業、きのこ収穫

はじめての方におすすめ！「お試しノウフク」

農福連携に興味はあるけれど、何から始めればいいのかわからない —そんな農業者の皆さんに向けて、長野県では「お試しノウフク」を実施しています。

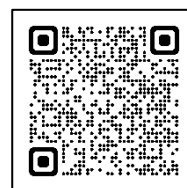
この制度では、マッチング支援を行うコーディネーターのアドバイスを受けながら、福祉事業所との打合せから農作業の委託までの一連の流れを体験できます。実際の作業を通じて、農福連携の可能性を実感できる貴重な機会です。

農業者の声

- 「人手が集まりにくい時期に作業に入ってもらい助かっています」
- 「自身がより生産性の高い作業に集中できるようになりました」
- 「最初はゆっくりですが慣れるとコツコツと確実に作業をしてくれます」

もっと知りたい方へ

作業の事例をまとめた動画や、事前準備、心構えのポイントをまとめたガイドブックを県 HP で公開しています。ぜひご覧ください。



お問い合わせ

「お試しノウフク」や農福連携に関するご相談は下記までお問い合わせください。

○長野県農業農村支援センター農業農村振興課  026-234-9592

○（一社）長野市農業公社（長野市内の農家の方）  080-1155-8948